

# 指定管理者制度導入施設 モニタリングシート

評価年度	令和2年度
------	-------

## 1 基本情報

公の施設名	相模原市立障害者支援センター松が丘園、相模原市立けやき体育館
指定管理者名	社会福祉法人相模原市社会福祉事業団
指定期間	平成31年4月1日から令和6年3月31日まで(5年間)
施設設置条例	相模原市立障害者支援センター条例、相模原市立けやき体育館条例
施設の設置目的	<p>【障害者支援センター松が丘園】                      障害者の自立と社会参加への参加を促進し、もって障害者の福祉の増進に寄与する。                      ※障害福祉サービス事業の多機能型事業所(生活介護、自立訓練、就労移行支援、就労継続支援B型、就労定着支援)及び地域生活支援事業の基幹相談支援センター等を実施</p> <p>【けやき体育館】                      障害者の健康の増進、機能の回復及び教養文化活動の促進を図り、もって障害者の福祉の向上に寄与する。</p>
施設概要	<p>【障害者支援センター松が丘園】                      ○所在地：相模原市中央区松が丘1丁目23番1号                      ○敷地面積：2,388.00㎡                      ○延床面積：2,703.45㎡                      ○構造：鉄筋コンクリート造、地下1階地上3階建</p> <p>【けやき体育館】                      ○所在地：相模原市中央区富士見6丁目6番23号                      ○敷地面積：4,058.72㎡のうち2,252.87㎡                      ○延床面積：1,723.37㎡                      ○構造：鉄筋コンクリート造陸屋根亜鉛メッキ鋼板葺2階建                      ○主な諸室：体育室、機能訓練室、更衣室、教養室、和室、教室</p>
施設所管課	健康福祉局 地域包括ケア推進部 高齢・障害者福祉課

## 2 管理実績

項目 (単位)	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
松が丘園	多機能型事業所利用者数 (人) (うち生活介護利用者数 (人))	9,408 (1,523)	9,410 (1,535)	9,806 (1,692)	9,354 (1,611)		
	一時ケア事業利用者数 (人)	2,043	2,032	1,774	1,204		
	自立支援給付費合計(円)	86,465,172	81,735,341	100,595,386	94,228,589		
	利用者負担金合計(円)	4,196,163	3,990,150	3,853,180	3,528,487		
	収入総額 (円)	454,102,139	464,160,239	360,339,529	357,442,538		
	支出総額 (円)	345,985,068	463,833,759	360,339,529	357,442,538		
けやき体育館	利用者数合計 (人)	67,135	60,325	58,259	18,325		
	障害者利用人数合計 (人)	22,084	19,935	19,861	7,028		
	利用料金合計 (円)	2,426,919	2,127,375	2,235,310	998,855		
	貸館率 (%)	68.0	68.0	68.3	45.2		
	収入総額 (円)	54,329,919	68,181,375	55,578,892	51,917,585		
	支出総額 (円)	54,329,919	68,181,375	55,578,892	51,917,585		

### 3 成果指標の達成度

評価 (5評価)	評価理由・委員会意見
<b>B</b>	成果指標の達成度は91.9%(両施設の平均)であり、評価基準により「B評価」とする。 <b>【障害者支援センター松が丘園】</b> 新型コロナウイルス感染症の影響により昨年度と比べて減少しているものの、高い実績値を維持しており、コロナ禍でも電話やオンラインツール等を活用した積極的な支援を行った成果であると考えます。 <b>【けやき体育館】</b> 1年間を通して、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、利用控えや休所の期間が長くなった。

<b>指標1</b>	障害者支援センター松が丘園
指標名 (単位)	年間就労者数 単位:人
指標式と指標の説明	施設を利用し、就労する障害者が増えることにより、障害者の自立と社会参加が推進されるため、就労支援事業利用登録者のうち、一般就労に結びついた人数を成果指標とする。

項目 (単位)	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
目標値 (人)	47	50	52	54	56	58	60
実績値 (人)	67	62	88	70	/	/	/
達成度 (%)	142.6%	124.0%	169.2%	129.6%	0.0%	0.0%	0.0%

<b>指標2</b>	けやき体育館
指標名 (単位)	障害者の年間延利用人数 単位:人
指標式と指標の説明	施設を利用する障害者が増えることにより、市内の障害者の健康の増進や教養文化活動の促進が図られるため、障害者の年間延利用者数を成果指標として設定する。

項目 (単位)	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
目標値 (人)	/	/	21,900	22,000	22,100	22,200	22,300
実績値 (人)	21,969	19,935	19,861	11,924	/	/	/
達成度 (%)	#DIV/0!	#DIV/0!	90.7%	54.2%	0.0%	0.0%	0.0%

令和2年4月1日から6月18日、令和3年1月13日から3月21日の間は休館していたことを考慮し、実績値は11,924人とする。

$7,028人 (実際の利用人数) \times 358日 (条例上の開館日数) \div 211日 (R2年度の開館日数) = 11,924人$

- ・「条例上の開館日数」は年末年始7日間の休館日を除いた日数
- ・「R2年度の開館日数」は条例上の開館日数358日からコロナの影響による施設の利用休止期間147日間を除いた日数

#### 4 事業の実施状況

評価 (5評価)	評価理由・委員会意見
S	<p>成果指標の達成度は松が丘園の達成度(133.3%)とけやき体育館の達成度(137.5%)との平均である135.4%であり、評価基準により「S評価」とする。</p> <p>【障害者支援センター松が丘園】 生活介護事業では、全員が重症心身障害者で障害支援区分6の方を受け入れていることや福祉研修センターや基幹相談支援センターの各事業において障害者支援施設等の職員の資質向上に取り組むなど、本市の障害者支援の中核的な役割を果たす専門性の高い事業を実施している。コロナ禍においては、特に就労支援関連と総合・専門相談の件数が増加しており、市内において重要な役割を担っていると考える。</p> <p>【けやき体育館】 新型コロナウイルス感染症の影響を受けて、講座や体験会は中止となったが、動画の作成やSNSを活用することにより、障害への理解促進に努めた。</p> <p>また、自主事業となる「けやきカフェ」の運営については、来店客数減少を補うためにテイクアウトを開始した。さらに、障害者支援センター松が丘園と連携して、就労体験の実習受け入れた。</p>

市が指定する事業			
障害者支援センター松が丘園			
主な事業名	実施時期	内容・回数・参加者等	評価
障害福祉サービスを行う業務	通年	年間利用者9,354人(生活介護1,611人、自立訓練1,999人、就労移行支援3,291人、就労継続支援B型2,453人) 就労定着支援契約者25人 医療的ケア実施数1,300回(うち人工呼吸器管理36回) 重症心身障害児者ネットワーク会議開催 就労者1人、職業評価実施10人、就労定着支援契約者25人	◎
基幹相談支援センター業務	通年	総合相談・専門相談 25,738件、 虐待防止・権利擁護に関する研修 11回、 スーパーバイザー派遣事業 101件、 相模原市障害者自立支援協議会 47回	◎
障害者の就労を支援する事業に関する業務	通年	新規就労者70人 (上記「障害福祉サービスを行う業務」の1人を含む) 職場実習のべ159日	◎
障害者を一時的に介護する事業に関する業務	通年	登録者282人、年間利用者1,204人 (うち医療的ケアの必要な者33人・困難要因のある利用者226人)、 障害者一時ケア事業所連絡会開催	◎
障害者の支援に関する事業に従事する人材の確保及び育成に関する業務	通年	研修開催44回、研修のべ参加者782人 「就職情報コーナー」に提供する情報収集実施、関係団体等に利用を周知	○
けやき体育館との連携に関する業務	通年	けやきカフェを活用した体験実習 4件 障害福祉サービス事業所の求人情報を常時閲覧できる「就職情報コーナー」を設置	○

企画提案事業			
障害者支援センター松が丘			
主な事業名	実施時期	内容・回数・参加者等	評価
(なし)			

自主事業			
障害者支援センター松が丘			
主な事業名	実施時期	内容・回数・参加者等	評価
(なし)			

市が指定する事業			
けやき体育館			
主な事業名	実施時期	内容・回数・参加者等	評価
障害者のスポーツ及び文化活動の支援に関する業務	通年	・新型コロナウイルス感染症の影響により、予定していたスポーツ・文化講座、パラスポーツ体験会は中止となった。 ・利用団体の紹介動画を作成し、SNSで公開した ・講座講師と連携し、自宅でもできる体操の動画紹介および作成を行った	◎
障害者余暇活動支援事業の実施に関する業務	通年	・当初予定していたイベントは中止となった。 ・おりづるプロジェクト、けやきクエスト、おねがいけやきの木など、コロナ禍の状況でも自宅や近隣で取り組めるものを提供した。 ・SNS等を使って自宅での余暇時間を過ごすための情報を発信した。	◎
障害者支援センターとの連携に関する業務	通年	就労援助事業との連携:けやきカフェでの障害者の実習受け入れ 4件 多機能型事業所との連携:インターンシップ実習受け入れ 7件	○

<b>企画提案事業</b>		けやき体育館	
主な事業名	実施時期	内容・回数・参加者等	評価
(なし)			

<b>自主事業</b>		けやき体育館	
主な事業名	実施時期	内容・回数・参加者等	評価
けやきカフェの経営	通年	松が丘園麦の穂のパンを取り入れたメニューの提供。テイクアウトの実施。149日営業	◎

## 5 利用者の満足度

評価 (5評価)	評価理由・委員会意見
<b>A</b>	<p>成果指標の達成度は105.1%(両施設の平均)であり、評価基準により「A評価」とする。</p> <p>【障害者支援センター松が丘園】 多機能型事業所(生活介護事業、自立訓練事業、就労移行支援事業、就労継続支援B型事業、就労定着支援事業)及び一時ケア事業に満足している利用者の割合は、いずれも目標値を超え、高い評価となっている。重度の障害者の受入れや就労支援では、多数の登録者がいる中で、高い評価を受けていることは、質の高いサービスを提供できていることが分かる。</p> <p>また、福祉オンブズマンにより、外部の視点を導入している点は評価できる。</p> <p>【けやき体育館】 100%に近い満足度となっており、特に職員対応への満足度が高く、利用者への細やかな支援が実施されていることが伺える結果である。一方、不満の理由としては、昨年度に引き続き、暑さ対策等施設の設備に関するものが多いが、大規模な改修を伴うことから早期に改善することは難しいため、扇風機の設置等により対策を図っている。</p>

<b>利用者満足度調査</b>	障害者支援センター松が丘園
調査手法/サンプル数	多機能型事業所及び一時ケア事業の利用者を対象に調査票を配布 実施期間:令和2年11月2日～30日 サンプル数:259件
目標値の基準	「所属している事業について、全体的な満足度が最もあてはまるものを選んでください。」との問いに対する4段階評価のうち「満足」「ある程度・まあ満足」と回答した人の割合の合計

項目 (単位)	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
目標値 (%)	91.1	91.7	92.3	92.9			
実績値 (%)	95.0	97.5	96.0	95.9			
達成度 (%)	104.3%	106.3%	104.0%	103.2%	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!

<b>その他の取組</b>		障害者支援センター松が丘園
取組事項	時期	取組内容
福祉研修センター受講者アンケート	随時	障害福祉基礎研修等の受講者にその都度アンケートを行い、要望や満足度等を確認することで、次年度の研修計画に生かしている
福祉オンブズマンの来訪	年5回	各回2名の相模原福祉オンブズマンが来所し、希望する利用者と一緒に面談を行う。福祉オンブズマンは、利用者から聞いた意見を施設側に伝えることで、適時の改善とよりよい支援につなげている

<b>利用者満足度調査</b>		けやき体育館
調査手法/サンプル数	施設利用者に窓口で調査票を配布 実施期間:令和2年11月1日～30日 サンプル数:168件	
目標値の基準	「施設を利用しての満足度はいかがですか。」との問いに対する4段階評価のうち「大変良い」「良い」と回答した人の	

項目 (単位)	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
目標値 (%)	91.1	91.7	92.3	92.9			
実績値 (%)	97.8	97.2	89.3	99.3			
達成度 (%)	107.4%	106.0%	96.7%	106.9%	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!

## 6 施設の経営状況

評価（5評価）	評価理由・委員会意見
S	収支は105千円の黒字となっている。 団体本体としては、総資産・正味財産は大きく、規模は安定している。資金流動性は良好であり、自己資本比率は高い。積立資産の保有が多く、総資産の54%を占め、借入金依存度は低い。経営状況に課題はない。

施設の収支概要		※直近3年間について記載		
		(千円)		
項目		平成30年度	令和元年度	令和2年度
収入 (a)		532,342	388,669	365,973
	指定管理料	265,968	265,630	250,574
	利用料金収入	3,623	3,534	1,879
	その他の収入	262,751	119,505	113,520
支出 (b)		532,015	388,669	365,868
	人件費	269,557	268,345	254,499
	本社管理経費	0	0	0
	その他の支出	262,458	120,324	111,369
本体事業収支 【(a)-(b)】(c)		327	0	105
自主事業収入 (d)		3,725	3,416	2,276
自主事業支出 (e)		3,725	3,416	2,276
自主事業収支 【(d)-(e)】(f)		0	0	0
全体収支 【(c)+(f)】		327	0	105
備考				

団体の財務状況	団体本体の経営状況について特段の問題はない。
---------	------------------------

## 7 管理業務の履行状況

検査方法	施設所管課職員による現地確認及びヒアリング
実施時期	【障害者支援センター松が丘園】 令和2年8月18日 【けやき体育館】 令和2年8月20日

検査項目	確認結果	備考
管理業務	適正に実施	
危機管理	適正に実施	
人員配置・地元活用	適正に実施	
現金管理	適正に実施	
会計・経理	適正に実施	
情報セキュリティ	適正に実施	
情報公開・個人情報保護	適正に実施	
市への報告事項・事前承認等	適正に実施	
加点事由	具体的内容	
有	法人の監査体制の強化を図った。	

## 8 指定管理者の自己評価

### 【障害者支援センター松が丘園】

・新型コロナウイルス感染症の影響により、障害者一時ケア事業の利用者数及び福祉研修センター事業の参加者数は大きく減少した。他方、基幹相談支援センターの相談件数が大幅に増えていることを見ても、新型コロナウイルス感染症は、支援を必要とする障害者により強く影響が出ることを実感しており、必要な方に支援が届く工夫をしながら事業を実施している。

・対面での研修や会議の開催は難しい状況が続くと想定し、オンライン配信の仕組みを整え、利用を開始している。

・通所系事業は、国、県、市の要請もあり、徹底した感染予防対策を実施したうえで、休所することなく、可能な限り通常どおりの事業を継続した。

### 【けやき体育館】

・新型コロナウイルス感染症に係る緊急事態宣言などによる休館や、再開後の利用団体の利用控えなどにより、利用人数は前年度の約35%となった。貸館再開に当たっては、各種ガイドラインを参考に感染症対策に取組むためのマニュアルを作成するとともに、多目的トイレのドアを自動化するなど必要な修繕を行い、安心して利用できる環境整備を行った。

・余暇活動支援事業として当初予定していた講座、イベント、パラスポーツ体験会を実施することはできなかったが、代替えとして自宅や近隣で取組めるおりづるプロジェクト、けやきクエストなどを実施した。おりづるプロジェクトでは多くの市民の協力により集まった20万羽のおりづるで制作した壁画の見学に、関わられた方をはじめ様々な方が来られ、けやき体育館について広報することができた。また、SNSを活用した余暇情報の発信を行うなど、コロナ禍における余暇活動の支援に取組んだ。

## 9 所管課意見

### 【障害者支援センター松が丘園】

・看護師の手厚い配置や新型コロナウイルス感染症に配慮したプログラム等の実施など、重度の障害のある方も安心して通所できる環境を整えている点は評価できる。

・コロナ禍において生活に不安を感じる方が増える中、就労支援や相談支援の件数が増加していることから、本施設の取組が重要な役割を担っていると考えられる。

・引き続き本市の課題に対して専門性を生かして取り組んでいただきたい。

### 【けやき体育館】

・当初予定していた事業が新型コロナウイルス感染症の影響により中止となる中で、SNSを活用するなどの障害者余暇活動支援事業等を実施するとともに、施設・設備の適切な維持管理が行われているため、引き続き、障害者の日常生活がより充実したものになるよう、工夫を凝らした講座の実施を期待する。

・当該年度は新型コロナウイルス感染症の影響で利用控えや長期の休館があったが、利用者に迅速な連絡等を行い、大きな混乱もなく対応された点は評価できる。

10 選考委員会意見

【障害者支援センター松が丘園】

【評価した点】

- ・高い専門性をもって事業を実施している。
- ・コロナ禍においても感染対策を講じ、積極的に支援を継続している。

【今後期待する点等】

- ・松が丘園の知識や支援・技術等を市内の障害福祉サービス事業所等へ伝達・共有することで、市全体の障害者支援のスキルアップを図ること。
- ・限られた人員の中で専門性の高い事業を維持していくために、市と連携して随時事業見直しを図ること。
- ・新型コロナウイルス感染症の収束後に向けて、既存の事業の見直しや精査を行い、より質の高い事業を実施されることを期待する。

【けやき体育館】

【評価した点】

- ・新型コロナウイルス感染症の影響がある中で、SNSを活用する等、より多くの障害のある方が利用しやすいよう工夫を凝らして余暇活動支援事業を実施している。

【今後期待する点等】

- ・けやきカフェの運営では、同法人が運営する障害者支援センター松が丘園の「麦の穂のパン」をメニューに取り入れるほか、同じく松が丘園から就労体験として実習生を受け入れており、2施設を同法人が運営しているメリットを最大限に生かしている。今後もこのメリットを生かし、更なる事業の展開を期待する。
- ・次年度以降は、動画やSNSにおける情報発信について、その効果（視聴数やフォロワー数等）を測る方法を検討すること。
- ・パラリンピックにより、障害者スポーツへの関心が高まっているので、パラアスリートや市内のパラ関係者を講師に呼ぶなど、更なる展開や事業の発展を期待する。

